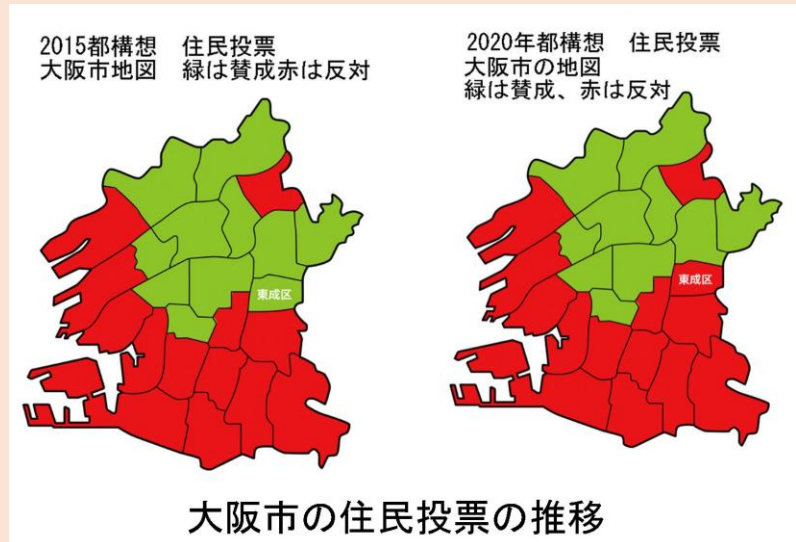


第68回 Kozoom28「大阪人^{かたぎ}気質を考える」

清水健二

前回(2026-1月)、Kozoom28のTVによるリモート会で、千葉宜嗣氏の大阪都構想に反対の意見がでた。それについて私は以前から関心があって、改めて意見を述べさせていただこうと寄稿した。

大阪市が大阪府と合体して、東京都に次いで、副都市として発展する構想に対し2015年と2020年の2度、大阪市民に賛否を問う住民投票が行われた。1回目は賛成49.62%、反対50.38%で否決され、2回目賛成49.37% 反対50.63%で共に僅少差で否決された。それを受けて現知事の吉村氏は3回目はやらないと表明した。今回吉村氏が代表している維新の会が自民党と連立を組むと一変して、副都市構想を持ち出し市と府が一体にして2重行政の解消と共に、大阪を発展させるチャンスだと改めて表明した。3回目は来年春予定しているようだが、どんな結果になるかは不明である。賛否二分する大阪市民はどんな結論を出すか関心がある。過去2回の結果から大阪の北部は賛成、南部は反対の傾向が続いているが、北部つまり「キタ」と



南部「ミナミ」に住む人達の「大阪に対する郷愁」の違いがあるように私には感じられた。古くから継承されてきた大阪人氣質(アイデンティティ)は南部に今も色濃く残っていて、日常生活の中で、大阪弁が抜けず会話の中には笑いと本音が混ざり合って、建前の議論を避けることによって話を円滑に進めている。北部は商家が多く商いに対して絶対の自負があり、権威に対し容易に屈服しないプライドをもちあわせている。常に「商売は負けるが勝ち」の姿勢で臨んでいるから手強い。江戸時代から大阪は自分達が築いたと豪語している商家は代々受け継がれてきた。そしてその成果は現在も生きている。江戸時代材木商を営む淀屋常安は中之島を開墾し蔵屋敷を建て淀屋橋を架橋した。道頓堀は川を開削した安井道頓もインフラに力を入れたことは、大きな誇りとなって伝えられている。しかも南北に共通する所は、合理性より情を、効率より余白を、正解よりオチの世界を大事に生活してきたよう

である。

現在、大阪市に住んでいる人達は市が都になって大きくなると、日常の行政サービスが低下し、合併に関わる諸経費も大きな負担になって



淀屋常安の碑



安井道頓の碑

自分達に返ってくると感じている。何より東京が政治の主導権をとっていることから、大阪は飲み込まれる危惧も抱いているようである。千葉氏の言うには、現状の流れから見て大企業が東京へ移動し政治も経済も共に移行し、若者達は多様な職種に恵まれた東京へ働く場を求めて、東京は一極集中化し大阪は廃れつつあるという。

確かに大阪の街は近代化し美しい街に変貌してきた。JR大阪駅の北側は既にグラン・フロントを中心にショッピングモールやホテルが建ち、さらに広大な貨物操車場が開発されてグラン・グリーン大阪の巨大なビル群が林立しだし、全く昔の面影もなくなり商業大都市になった。また南部の難波・高島屋前は広場になり、更に南へ天王寺・あべの界隈はアベノ・ハルカスを中心に古い町は消えていった。



難波高島屋前の風景



天王寺のハルカスを展望

街は利便性に富み、観光地化して昨年1年間に海外からの訪問客は1760万人と過去最高になった。古い住居としての町の姿が消え、大阪の庶民文化は何処へ行ってしまったのかと感じる。大阪以上に日本の地方文化は消えつつあり、若者達は生地を後にして寂れつつあり、暮らしの中で憩いとな

っていた四季の行事や芸能、そして工芸の文化を継承する者が少なくなって絶滅危機になりつつある。

私はかねてから主張してきているが、何かといえば経済発展を求め、それに呼応して政治家たちは目先の生活を優先した話をする。もっと伝統ある日本文化を継承し育むことの必要性を認識してほしいと思っている。技術開発を経済進展へ直結させて、多様性を信奉することから、若者たちは孤独で利己的になりつつある危険性を感じている。共助の精神を培いながら日常生活をすることで、心豊かな人生を味わえるものだと私は確信している。大阪人気質も地方文化であり、大事に後継できる社会づくりが求められよう。利便性や美しい街造りも必要だが、穏やかで犯罪の無い、安全に住める人間環境作りを指向し、特色のある地方文化を守る政治家が出現することを願わずにはおれない。

令和8年2月 記